

静岡市監査委員会議記録

会 議 令和5年度 第7回 監査委員定例協議会

開催日時 令和5年10月31日（火）午前9時10分～10時46分

出席者 監査委員 遠藤 正方、白鳥三和子、畑田 響、後藤 哲朗
事務局長 萩原 健
書記 杉田 陽子
山田 和誠、山田 裕、渡辺 篤史、蝦名 倫代
宇佐美亜希、神山 悟
新海 拓也、山本 和延、稲葉 典子

会議内容

1 開会宣言 杉田次長

2 例月現金出納検査等（9月分）

冒頭、山田次長補佐から、各会計とも、検査調書に記載されている預金残額と通帳類などの実物を事務局職員が照合した結果、一致していることが確認された旨の報告があった。

（1）説明者等

ア 各種会計 宇佐美係長（監査第2係）

イ 病院事業会計 清水病院事務局長、病院総務課長、病院施設課長、医事課長

ウ 簡易水道事業会計 保健衛生医療部長、保健衛生医療課長、保健衛生医療課市立病院・公営企業担当課長、保健衛生医療課簡易水道担当課長、上下水道経営課長

エ 水道事業会計 上下水道経営管理部長、上下水道経営課長、お客様サービス課長

オ 下水道事業会計 上下水道経営管理部長、上下水道経営課長、お客様サービス課長

（2）発言等

ア 各種会計

（白鳥委員）

今月抽出の寄附金収入、財政管理費寄附金の内容は、ふるさと納税か。

（事務局）

そのとおりである。

(畑田委員)

抽出の7款商工費の内訳にある4項目は、これをさらに抽出したということか。

(事務局)

商工費の中で執行額が多かったものを記載している。

イ 病院事業会計

(畑田委員)

昨年の9月末時点と比較し入院単価が上がっており、費用についても材料費や光熱水費が増加したとのことであるが、患者の負担が増えているということか。

(清水病院事務局)

費用の増加分については県補助金や一般会計補助金で増加分を付け増ししており、患者の負担が増えているということではない。

入院単価の増は、長めの入院を短めにしたりして入院患者数が増加したことや、診療報酬の加算などによるものである。

(遠藤代表)

年間予定に対する執行率について、入院収益が47.7%、外来収益が51.8%となっている。患者数は季節によって増減があると思われるが、経験則からして収益は年間予定に達すると考えているのか。

(清水病院事務局)

上半期の状況は予定どおりである。患者数については冬に増加する傾向にあるが、一方で、看護師が大量に退職したことにより現在1病棟を閉鎖している状態である。そのような状態で昨年度並みに患者を受け入れることができれば年間予定に達すると思われるが、現状では厳しいと考えている。

(遠藤代表)

検査調書では看護師が1人減となっているが、昨年度からの引き継ぎで看護師が大きく不足しているということか。

(清水病院事務局)

看護師は令和4年度に39人が退職し、今年度は10人の採用だったため約30人減少しており、1病棟を開くことができない状況となっている。

(白鳥委員)

1病棟を閉じたのはいつからか。

(清水病院事務局)

令和5年4月1日からである。

(後藤委員)

確認だが、病棟を閉めているというのは入院患者の病棟のことか。

(清水病院事務局)

そのとおりである。

(遠藤代表)

入院収益と外来収益の年間予定に対する執行率が5割程度となっているが、一方、費用については燃料費の高騰等により昨年9月末時点と比較し金額が高くなっているものの年間予定に対する執行率が4割弱となっている。この執行率の数字から効率的な運営ができていると捉えていいのか。

(清水病院事務局)

病院は最後の3月にまとめて支払うものが多いため、年度途中の時点では費用の執行率は低くなるが、3月末時点ではほぼ100%になると見込んでいる。

(遠藤代表)

年間予定に対する執行率は現金ベースということか。

(清水病院事務局)

そのとおりである。

(後藤委員)

1病棟を閉めていて満床に近い状態であるなら、入院が必要な方についてはどのように対応しているのか。

(清水病院事務局)

予定していた入院を後に送ったり、早めに退院してベッドを空けたりといったベッドコントロールにより対応している状況であるが、上半期に病床がいっぱいになり救急の受入れを制限したことがあったので、下半期についてもそのような日が増えてくると思われる。

(後藤委員)

救急の受入れができなくなるということか。

(清水病院事務局)

夜間等の輪番制における当番病院となっている場合は、必ず何床か病床を空けて対応しているが、例えば昼間の時間帯に満床で受入れできない場合は、他の病院で対応してもらうよう調整することになる。

(後藤委員)

外来患者数が昨年9月末時点と比較し4千人程度減少しているが、どのような要因があるのか。

(清水病院事務局)

国全体として、総合病院は基本的に入院患者を受け入れ、外来は地域の開業医で診てもらおうという動きがあり、初診時に開業医からの紹介状を持たない患者が総合病院を受診すると特別初診料が付加されるということもあり、外来患者数は減少している。

一方で、外来単価は昨年9月末時点と比較して増加しているが、これはある程度症状の軽い患者は開業医で受診し、病院は開業医からの紹介を受けて症状が重い患

者を受け入れているためである。

(後藤委員)

昨年と比較して30人程度看護師が少なくなったということであるが、看護師が欠員の状態の病棟は他にあるのか。

(清水病院事務局)

どの病棟も1人から2人は看護師が不足している状況である。

(遠藤代表)

看護師不足の理由について、新型コロナウイルス感染症の影響等は清水病院に限らず全国的な問題であると思われるが、清水病院に固有の課題で解決を図れるものはないのか。

(清水病院事務局)

他病院の状況を視察した中で、清水病院では看護師が従来ながらの紙の書類を用いて業務を行っており、事務職でもよい業務を看護師が行っているような状況が見受けられたため、外来看護師の業務効率化として11月の中旬から書類の受付業務を集中的に行う書類検査説明センターを新たに設け、看護師の負担軽減に取り組んでいる。

(畑田委員)

預金支出内訳書の経費のうち賃借料として医師等民間住宅借上とあるが何人分か。支出額が約2,400万円となっており医師数の約80人で割ると1人当たり約30万円となり高額かと思われる。

(清水病院事務局)

賃借料の支出額については医師等民間住宅借上料以外のその他の賃借料も含まれており、このうち医師等民間住宅借上料は492万6,500円である。この内訳は、医師50人分で、平均では1人当たり約9万8000円となっている。

なお、病院が民間住宅借上料の全額を一旦支払うが、医師本人からは給与天引きにより当該費用の一部を徴収しており、その引去額は324万5,750円で、病院では1人当たり上限3万7500円を負担している。

ウ 簡易水道事業会計

(遠藤代表)

収益的収支における対予算の執行率が収入38%、支出17%となっており、執行率が少し低いように見受けられるが、前年度と比較するとほぼ同様の数字であるため、計画どおりに執行されていると考えてよいのか。

(保健衛生医療課)

委託料の支払などは年度の後半に集中する傾向があるので、おおむね計画どおりである。

エ 水道事業会計

(畑田委員)

令和5年度上半期水道事業会計の執行状況のうち工事請負費の執行率は対予算比が17.6%、対前年度比も84.4%となっているが、工事の平準化に取り組まれているのか。

(上下水道経営課)

債務負担行為の活用や発注ロットを少し大きくすることで、発注母数を抑えることにより工事の平準化を図ってきたが、昨年の台風第15号により工事業者が災害復旧業務を行うこととなり、昨年度より執行率の低下や入札不調が増加しているような傾向が見られている。

(後藤委員)

特別利益の内訳は何か。

(上下水道経営課)

土地の売払いがあった。4条予算で、帳簿価額を超えた差益の部分を特別利益として計上している。

(遠藤代表)

簿価を超えて売れたということか。

(上下水道経営課)

そのとおりである。

(白鳥委員)

12,000円余が簿価だったということか。特別利益2,400万円の内訳がほぼ土地の売却益ということか。

(上下水道経営課)

そのとおりである。相当以前に取得した土地であり、現状の評価額では2,400万円である。葵南道路整備課に有償譲渡したものである。

(遠藤代表)

先ほどの入札不調の件で、今年度も入札不調が少し増えているという説明であったが、その理由は、前年度の台風第15号の復旧業務が完全に終わっていないことから、工事業者が災害復旧に手一杯になっているということか。

(上下水道経営課)

昨年度は仮復旧ということで応急復旧工事であったが、今年度は本復旧工事となり、工事量が増えてきている。復旧工事に当たっている工事業者が全て水道工事業者ではないが、若干の影響が出ていると考えている。

オ 下水道事業会計

(白鳥委員)

1ページ負債勘定の企業債(流動)の約27億円は未払金へ振り替えられているかと思うが、この未払金について、5ページ資金予算表にはどのように計上されているのか。

か。

(上下水道経営課)

1 ページの企業債(流動)のうちの大部分が9月中の支払であり、5 ページの企業債償還金の当月執行済額35億円の中に計上されている。残りは9月中に支出命令を起票し10月に支払うもので、10月予定欄に計上されている。

(畑田委員)

5 ページ資金予算表の下水道事業収入について、10月、11月収入予定額の約9億に対して、当月執行済額が34億円と多額になっているのはなぜか。

(上下水道経営課)

9月は一般会計からの雨水処理負担金30億円が計上されているため。

(畑田委員)

9月の下水道使用料の収入済額が約4億円と少額になっているのはなぜか。

(上下水道経営課)

月またぎが土曜日曜である影響で、銀行から下水道事業会計の預金口座への送金にタイムラグが発生するためである。調定額ベースでは、下水道使用料は奇数月と偶数月で若干の違いはあるものの、大きな差はない。

(遠藤代表)

雨水処理負担金は一般会計とのやり取りであるため、毎月フラットではなく、収入があった特定の月に大きく増加するという理解でよいか。

(上下水道経営課)

そのとおりである。

3 協議会議事

(1) 報告事項

ア 報第8号 内部統制の不備に関する報告(令和5年9月分)について

(ア) 説明者

新海係長

(イ) 要旨

報告事項により説明

(ウ) 発言等

特になし

(2) その他連絡事項

ア 令和5年度第6回定例協議会議事録の公表について・・・・・・山田次長補佐が説明

イ 11・12月の日程について・・・・・・・・・・・・・・・・杉田次長が説明

4 閉会宣言 杉田次長